

【実践報告4】

ー グループ・アプローチと異学年交流活動を生かした取組 ー

1 対象集団の状況

本校は平成19年度に開校し4年目を迎える。「夢をえがき、未来をひらく」を校訓に、整った環境の下、「子どもの笑顔があふれる学校」を目指し教育活動を推進している。学区は、名古屋市、豊明市と隣接し、新興住宅地が広がる地域に位置しており、人口増加が著しい。児童は、東郷町内をはじめ、名古屋市、豊明市、日進市、みよし市にある10ほどの保育園、幼稚園を卒園して入学してくる。平成22年度の児童数は726名。学級数は、特別支援学級3学級を含めて、25学級の中規模校である。保護者の教育に対する意識は高く、授業参観や運動会、学習発表会など学校行事への参加率も高い。

入学を前に、10月の就学時健康診断や2月の入学説明会を行い、新たに始まる小学校生活のスタートがスムーズに切れるように配慮をしている。最近は、「小1プロブレム」の問題が指摘されるように、環境の変化に対応しきれず、登校を渋ったり、人間関係づくりに戸惑ったりと、学校生活にすぐになじめない児童も少なくはない。そこで、3月と5月に幼稚園・保育園との連絡会を開催し、児童や家庭の情報を共有し、校種間の連携を深めている。入学後に実施したアンケートの結果からも、学校生活への不安を抱えている児童が少なからず存在することが明らかとなっている。平成22年度の新1年生は128名で、ここ数年と比較すると、今年度は、支援を必要とする児童の数が増えている。

開校以来、児童会活動に力を入れている。「開拓者精神（フロンティア・スピリット）」をスローガンに、児童自らの手で望ましい校風や行事を創ろうとする意識を育てている。年間を通して、ペア学年（1・6年、2・4年、3・5年）を活用し、「なかよし班活動」による異学年交流活動を行っている。個性や違いを尊重する意識と、思いやりの心を育てることがねらいである。毎年、2月に本校フェスティバルを実施している。これは、「なかよし班」が一つのチームとなり、高学年の子どもたちが考えたゲームやアトラクションに挑戦し、得点を競う活動である。

2 実践の内容

(1) 実践のねらい

今回の実践では、小学校という新しい環境に入った新1年生がスムーズに生活に適應できるように、グループ・アプローチと異学年交流活動（6年生との活動）を生かして教育活動を行う。グループ・アプローチでは、幼稚園・保育園との情報交換・交流を生かして、新しい環境に慣れるための工夫をする。実践前と実践後に、児童に対して、学校適應に関する意識調査（効果測定）を実施し、実践の有効性を検証する。さらに、PDCAサイクルを生かして、児童の実態に合わせたグループ・アプローチの方法を考えた実践としていく。

(2) 実践構想図

本実践の全体構想図を次ページに示す。

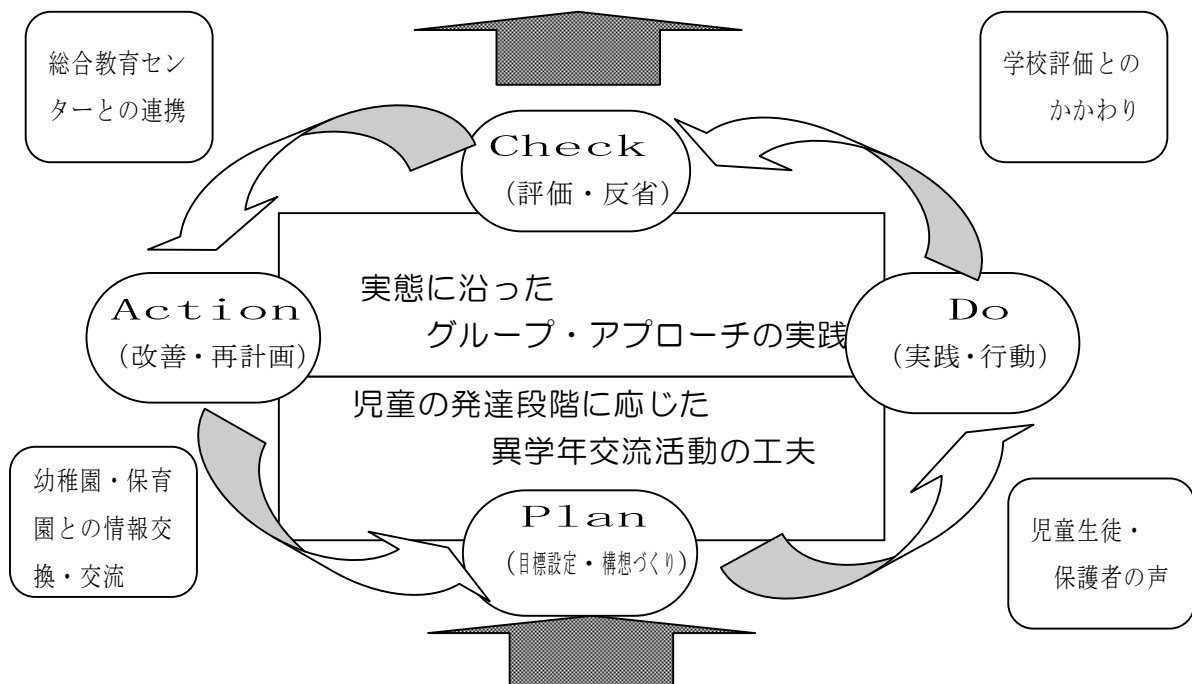
【実践全体構想図】

【実践テーマ】

－ グループ・アプローチと異学年交流活動を生かした取組を通して －

【めざす児童像】

- 他とうまくかかわりを持ち、よりよい人間関係を築く姿
- 新しい環境にはやく適応し、他とともに仲良く学校生活をおくる姿



【実践のねらい】

- 児童の実態に合わせて、グループ・アプローチを実践することにより、1年生がスムーズに小学校生活を送れるようにする。
- 児童の発達段階に応じて、異学年交流活動を工夫して行うことにより、思いやりの心を育てる。

- ◎ 明るく、活発な児童
- ◎ さかんな児童会活動
- ◎ 保護者・地域の学校教育への高い関心

- ▲ 不登校，登校渋りなど，環境への不適応児童
- ▲ 人間関係をめぐるトラブル
- ▲ 保護者のニーズの多様性

(3) 実践計画（1年の流れ ※ 平成21年度）

月	学校適応にかかわる取組	実態調査等	その他
入学前	保育園・幼稚園への聞き取り調査		入学説明会
4月		前期異学年交流活動 (ペア活動)	児童の実態把握
5月	グループ・アプローチ	↓	なかよし遊び
6月	↓		
7月			効果測定
8月	1学期の振り返り		
9月	グループ・アプローチ		
10月		後期異学年交流活動 (ペア活動)	就学時健康診断
11月	↓		効果測定 幼稚園・保育園訪問 (教務主任・養護教諭)
12月	2学期の振り返り		
1月		本校フェスティバル	
2月		なかよし遊び	振り返り 入学説明会
3月	学級編制 新分団編制		幼保小連絡会 お迎え当番決定

【保育園・幼稚園でやっている遊びやエクササイズの調査】 ※ 平成20年度の調査より
ドッジボール，猛獣がり，じゃんけん列車，氷鬼，どろけい，リレー遊び，玉入れ，
しっぽとりゲーム，ハンカチ落とし，いすとりゲーム，リトミック運動
だるまさんがころんだ，はないちもんめ，ぼこぺん，ひょうたんおに，からすかずのこ，なん
でもばすけっと，なべなべだんす，なわとび，ゆうびんごっこ，お店やさんごっこ など

(4) 実践の様子

【実践1：縦割り活動（1，6年ペア活動）】

ア 活動の内容

本校では，年間を通して，上学年と下学年とがペアを組んで，清掃や遊びを中心に一緒に行う活動である。1年と6年，2年と4年，3年と5年が80ほどのペアを組んでいる。この活動を通して，上学年の児童は，下学年の児童をいたわる気持ちを，下学年の児童は，上学年の児童に感謝する心をはぐくむことをねらいとしている。

(ア) なかよし清掃

1年生4クラス、6年生3クラスを6～10人ほどのグループに分け、清掃をする活動である。6年生は清掃道具の使い方を1年生に丁寧に教えたり、逆に1年生が6年生に清掃の仕方を聞いたりして、交流が見られる。

前期（4月～9月）・後期（10月～3月）の二期制をとっている。

(イ) なかよし遊び

前期、後期に1回ずつペア清掃班（なかよし班）でレクリエーションをする日を設定し、昼放課に交流を深めている。前期は上学年児童がレクリエーションの内容を考え、後期は下学年児童が内容を考え実施している。具体的には、「こおり鬼」「鬼ごっこ」「だるまさんがころんだ」など、下学年でも取り組める内容が多い。

(ウ) 本校フェスティバル

本校フェスティバルを1月22日（金）に行った。この行事はなかよし班が一つのチームとなり、高学年の子どもたちが考えたゲームやアトラクションに挑戦し、得点を競う取り組みある。企画、準備、当日の運営と児童会役員が中心となり、すべてを児童の手で創り上げている。今年度もゲームやアトラクションの内容は、ペットボトルをピンに見立てたボーリング、段ボールを利用した的あて、教室のレイアウトを工夫したお化け屋敷など多岐にわたった。1年生から6年生の児童が、一つの目標に向けて一致団結する行事である。

イ 考察

開校3年目を迎え、「なかよし班」を中心とした異学年交流活動は定着している。低学年の児童からは「大きいお兄さん、お姉さんがいると安心できる」「わからないことを優しく教えてくれる」など、高学年の児童に感謝する声が聞かれた。また、高学年の児童からは「小さな子はとてもかわいい」「自分が1年生のときのことを思い出して、親切に教えてあげた」などの声が聞かれ、ねらいは達成できた。はじめは、学校生活に不安を抱いているようだった1年生は、この活動を通して、学校生活に慣れ、2学期には自信に満ちた表情で過ごすようになっていく。1年生は、なかよし班で一緒になった6年生児童に手紙を贈ったり、自分たちの学級が企画した「あきまつり」に招待したりと、交流の幅が広がった。

【実践2：グループ・アプローチ（6月の実践）】

ア 実践の様子

① あかいくつゲーム

- ・ 「赤い靴」の歌に合わせて、手でアクションをする。気持ちを和らげるためのエクササイズ。



【なかよし清掃の様子】



【アトラクションの様子】



【ファシリテーターの説明を聞く】

- ② じゃんけんれっしゃ
 - ・ じゃんけんをし、負けた人は勝った人の後ろにつく。
- ③ なかまあつめ
 - ・ ファシリテーターの笛の数だけ、なかまを集め、集まったら座る。徐々に数を増やし、最後は5人グループをつくった。
- ④ イエス・ノーゲーム
 - ・ ③の最後に5人グループをつくっておき、一人がファシリテーターからキーワードを聞き、それをグループに持ち帰り、グループでキーワードを考える。キーワードを知らない他の人は、知っている人に質問をし、それに対して、「イエス」か「ノー」で答え、キーワードを探っていくエクササイズ。5回繰り返した。

イ 考察

- 児童にとって、ファシリテーターとの授業は初めてだったので、初めは緊張していた。①、②のエクササイズを実施したあと、リラックスした様子を感じ取れた。③のエクササイズまでは児童はスムーズに取り組むことができた。④については、1年生にとっては、やや高度だったのか、内容を理解するのに時間がかかった。
- ふりかえりの結果から、9割を超える児童が、「楽しかった」「またやってみたい」と答えていた。
- 個の「楽しさ」と集団の中での「適応度」をどのようにかかわらせていったらよいか課題として残った。

【実践3：グループ・アプローチ（10月の実践）】

ア 実践の様子

- ① 握手ではいろう（10：35～）
 - ・ ファシリテーターと握手して部屋に入る。（自己紹介をし合って）
- ② 整列
- ③ おはなし
- ④ 本日のねらいの説明
 - ・ ルールの確認～長い笛になったら、もとの隊形に集まること確認しておく。
- ⑤ あくしゅじゃんけん
 - ・ じゃんけんをして、勝った人は負けた人に質問できる。
 (例)・好きな食べ物は何ですか？
 ・好きなテレビ番組は何ですか？
 ・好きな勉強は何ですか？
 ・昨日は何時に寝ましたか？ など
- ⑥ 好きな4つのコーナーに集まろうゲーム
 - ・ 好きな季節に集まり、どうしてそう思うのか話しをする。
 - ・ 好きなくだものにあつまり、どうしてそう思うのか話しをする。
 (りんご、みかん、バナナ、メロン)
 - ・ 好きな動物にあつまり、どうしてそう思うのか話しをする。
 (いぬ、ねこ、こあら、イルカ)

- ⑦ じゃんけんれっしゃ
 - ・ 「おそいれっしゃバージョン」「はやいれっしゃバージョン」の2通り実践した。
- ⑧ 笛の合図でなかまをつくろう
 - ・ ファシリテーターが吹く笛の数だけなかまをつくって集まる。2人→3人→8人→6人と集まらせ、最終的に五つのグループをつくった。
- ⑨ ひらがなからどうぶつをつくろう
 - ・ ⑧でつくったグループにひらがなのカードを70枚くばり、みんなで協力して動物の名前をできるだけたくさんつくる。
- ⑩ 握手でバイバイ
 - ・ ファシリテーターと握手して別れる。(お礼を言い合って)



【ひらがなでどうぶつをつくろう】

イ 考察

- 前回の実践時に比べ、児童の多くは学校生活に慣れ、リラックスした様子で参加していた。振り返りの結果、ほとんどの児童が「楽しかった」「またやってみたい」と答えていた。前回と同様の結果であった。
- 前回、一つ一つのゲームのつながりの場面でやや騒がしくなってしまったので、今回は、④で、「長い笛が鳴ったら集まる」というルールを決めた。その結果、1時間混乱することなく実践を進めることができた。
- 集団に入れない児童が2名いた。担任の先生のサポートで途中からは参加できたが、自分の思う通りにならないと、教室を飛び出してしまうこともあり、どのように対処したらよいか考えさせられた。

【実践4：グループ・アプローチ（12月の実践） ※ 2クラス合同 61名】

ア 実践の様子

前回の実践では、1時間で行ったエクササイズの数が多すぎたと感じた。大きな流れは変えずに今回は一つのエクササイズに時間をかけて実践することにした。

- ① 握手ではいろう（10：35～）
 - ・ ファシリテーターと握手して部屋に入る。(自己紹介をし合って)
- ② 整列
- ③ おはなし
- ④ 本日のねらいの説明
 - ・ ルールの確認～長い笛がなったら、もとの隊形に集まること確認しておく。
- ⑤ あかいくつゲーム
 - ・ 「赤い靴」の歌に合わせて、手でアクションをする。気持ちを和らげるためのエクササイズ。
- ⑦ じゃんけんれっしゃ
 - ・ 今回は、人数が多かったので「おそいれっしゃバージョン」で行った。5回行って、チャンピオンになった子には拍手を送るようにうながした。
- ⑧ 笛の合図でなかまをつくろう
 - ・ ファシリテーターが吹く笛の数だけなかまをつくって集まる。2人→3人→8人→6人と集まらせ、最終的に五つのグループをつくった。

⑨ 握手でバイバイ

- ・ ファシリテーターと握手して別れる。(お礼を言い合って)

【その他】

12月21日(月)の5時間目に1年生がクリスマス集会を行った。担任団の要請があり、教務主任が、サンタクロースのふん装をして登場することにした。思わぬ参加者に子どもたちは大喜びだった。簡単なクイズをし、最後まで残った子どもには賞品を渡し、参加者全員にクリスマスプレゼントを贈り、会場を後にした。子どもたちの中には、だれがサンタクロースにふんしているかうすうす分かっている子もいた。継続的にファシリテーターを務めてきたこともあり、とても和やかな雰囲気をつくり出すことができた。

【児童の変容】

児童Aの変容を追ってみた。児童Aは入学当初、昇降口までは登校できるのだが、1時間目または2時間目が終わるまでは教室に入ることができなかった。5月半ばまでは、同じような状態が続き、担任をはじめ多くの教師がスムーズに教室に行くことができるよう支援をした。しかし、1学期の終わりごろになると、朝の会までには教室に行くことができるまでになった。グループ・アプローチをはじめ、異学年交流活動など、様々な取り組みの成果もかかわっていると思う。

(5) 考察と課題(21年度)

一つのグループ・アプローチを時間をかけて行ったり、ファシリテーターがサンタの衣装を着たりするなど、グループ・アプローチを工夫して実践すれば、1年生にとって集団で活動することの楽しさを味わい、それが学校生活の適応につながると感じた。今回は、ファシリテーターを教務主任が務め、児童からみると新鮮さが加わったことも効果を深めたのではないかと考えた。児童と廊下ですれ違ったときに、「またゲームやろうよ」「次はいつなの」などと声をかける子が増えたことから一定の効果が得られたのではないかと思う。

異学年交流活動の一環として実施している「ペア活動」は、人とのかかわりを深める上で成果が得られている。2学期の行事として、1年生は「あきまつり」、6年生は「秋祭り」を行っている。それらの行事に互いに招待し合うなど、新たな交流場面も見られるようになった。1月に行った「本校フェスティバル」でこの交流活動がさらに深まった。

次年度に向けて、次の3点が課題として残った。

- 児童の変容とグループ・アプローチとのかかわりをどのように分析し、とらえていくか。
- グループ・アプローチを学校運営計画の中にどう位置付けていくか。
- 入学前の児童の様子を把握するため、幼稚園、保育園等との関係をどのように深めていくか。

(6) 実践の様子(平成22年度)

【平成21年度の課題を受けて】

- ◆ 担任教師とも連携して、学校生活全般にわたり抽出児童の変容をとらえる。
- ◆ グループ・アプローチは学級活動の時間を中心に行う。
- ◆ 幼稚園・保育園の先生との情報交換を通して、児童の発達段階に応じて、どのようなグループ・アプローチが効果的かを考え、実践する。

○ 実践計画（1年の流れ ※ 平成22年度）

月	グループ・アプローチなど	実態調査等	その他
入学前	職員会議での提案・現職教育での共通理解		入学説明会 幼保小連絡会
4月		前期異学年交流活動 (ペア活動)	児童の実態把握
5月	グループ・アプローチ (学級活動)		幼保小連絡会 (新入学児童の情報交換等)
6月			
7月			効果測定
8月	1学期の振り返り		
9月	グループ・アプローチ (学級活動)		
10月		後期異学年交流活動 (ペア活動)	
11月			効果測定 就学時健康診断
		研究発表会 (総合教育センター)	
12月	2学期の振り返り		
1月		本校フェスティバル	
2月			振り返り 入学説明会 幼稚園・保育園訪問 (教務主任・養護教諭)
3月	学級編制 新分団編制		幼保小連絡会 お迎え当番決定

【実践1：グループ・アプローチ（学級活動の「適応（望ましい人間関係づくり）」の時間）】

※ 5/24（月）3時間目 1年2組，4組合同 61名 場所（多目的室）

※ 5/25（火）3時間目 1年1組，3組合同 62名 場所（多目的室）

ア 実践の様子

① あいさつ，自己紹介（文字バラ）

- ・ ファシリテーターの自己紹介をする。
- ・ ホワイトボードにはってある，ひらがなのカードを並べ，ファシリテーターの名前をあてる。

② ルールづくり

- ・ 手の合図で，「立つ」「座る」「静かにする」，笛を3回鳴らしたら，「元の場所に集まる」というルールを覚える。

③ 後出しじゃんけん（ポンポンじゃんけん）

- ・ ファシリテーターとじゃんけんをする。児童はテンポをずらして出し，ファシリテーターに，「引き分ける」「勝つ」「負ける」ようにじゃんけんをする。

※ ①，②，③により1時間の雰囲気づくりをする。

- ④ じゃんけんれっしゃ（おそいれっしゃバージョン）
- ・ 多目的室（教室2つ分の広さ）を考慮して、けがをさせないように、ゆっくり移動するよう指示を出す。
 - ・ 3回実施し、最後まで先頭だった児童を皆の前で褒める。
- ⑤ 猛獣がり
- ・ ファシリテーターに続き、「猛獣がり」の歌を歌い、最後の猛獣の文字数の仲間をつくり座る。
 - ・ 最後に、仲間ができなかった児童をファシリテーターのもとに集め、「仲間ができなかったから罰ゲームだよ」と伝えた。児童たちは、「えーっ」とちょっと怒ったような表情を見せた。ファシリテーターが、「罰ゲームは、先生と一緒に部屋の電気を消し、戸締まりをすることだよ」と伝えると、多くの児童が「それならばくもやりたい」と言った。
- ⑥ ふりかえり
- ・ 児童を元の場所に集め、ファシリテーターが児童に感想を尋ね、ふりかえりをする。
 - ・ 教室にもどり、自分の気持ちを「ふりかえりかあど」に記入する。

イ 考察

- ・ 「ふりかえりかあど」には、ほぼ全員が「とても楽しかった」「またやりたい」と書いていた。全体的には、ファシリテーターと児童、児童相互に打ち解けた時間となった。ただ、一人だけ「楽しくなかった」と書いていた児童がいた。担任が理由を尋ねると、じゃんけんれっしゃで負けたことが悔しくて、ずっと泣いていたとのことだった。この児童に対しては今後、グループ・アプローチを行うときに気を付けてみていくことを担任と確認した。

【実践2：グループ・アプローチ（学級活動の「適応（望ましい人間関係づくり）」の時間）】

※ 7月12日（月）3時間目 1年2組，4組合同 61名 場所（多目的室）

※ 7月13日（火）5時間目 1年1組，3組合同 62名 場所（多目的室）

ア 実践の様子

児童が前回のグループ・アプローチをもう一度やってほしいという要望が強いとの話担任から聞いたので、前回とほぼ同じ流れにした。

- ① あいさつ，自己紹介（文字バラ）
- ・ ホワイトボードにはってあるひらがなのカードを並べ、ファシリテーターの名前を思い出す。
- ② ルールづくり
- ・ 手の合図で、「立つ」「座る」「静かにする」、笛を3回鳴らしたら、「元の場所に集まる」というルールを覚える。
- ③ 後出しじゃんけん（ポンポンじゃんけん）
- ・ ファシリテーターとじゃんけんをする。児童はテンポをずらして出し、ファシリテーターに、「引き分ける」「勝つ」「負ける」ようにじゃんけんをする。



【ファシリテーターの名前をあてる】

※ ①, ②, ③により1時間の雰囲気づくりをする。

④ じゃんけんれっしゃ (おそいれっしゃバージョン)

- ・ 多目的室 (教室2つ分の広さ) を考慮して, けがをさせないように, ゆっくり移動するよう指示を出す。
- ・ 3回実施し, 最後まで先頭だった児童を皆の前で褒める。

⑤ 猛獣がり

- ・ ファシリテータに続き, 「猛獣がり」の歌を歌い, 最後の猛獣の文字数の仲間をつくり座る。
- ・ 2文字の動物 (クマ) から始めて, 最後の8文字の動物 (マウンテンゴリラ) まで, 合計6回行った。

⑥ 振り返り

- ・ 児童を元の場所に集め, ファシリテーターが児童に感想を尋ね, ふりかえりをする。
- ・ 教室にもどり, 自分の気持ちを「ふりかえりかあど」に記入する。

イ 考察

- ・ 「ふりかえりかあど」には, ほぼ全員が「とても楽しかった」「またやりたい」と書いていた。この結果については, ほぼ前回と同じであった。もう一度やりたいか尋ねたところ, 全員が元気よく手を挙げた。1回目のグループ・アプローチで, 「楽しくなかった」と書いた児童Aも「とても楽しかった」と答えていた。2学期にも実施することを全員と約束して終わりとした。

3 結果と考察

(1) グループ・アプローチの実践について

保育園・幼稚園とも情報交換や交流をして, グループ・アプローチとしていろいろなエクササイズを実践した。ファシリテーターの立場から, エクササイズの成功のポイントの一つは, 時間のはじまりの雰囲気づくりにあると感じた。じゃんけんを活用した簡単なゲームを取り入れると, ほぼ全員を集中させることができた。また, エクササイズにおいては, 「テンポ」「間の取り方」に注意して進めることが大切である。児童の振り返りから, 「猛獣がり」がいちばん人気があることが分かった。

(2) 異学年交流活動の実践について

ペア学年を組んでいる6年生とのかかわりが多かった。入学して間もないころ, 清掃や休み時間の遊びで6年生と一緒に過ごしたことで, 1年生は, 小学校生活に早く慣れることができた。また, 6年生も, 1年生をいたわる心を養うとともに, 最高学年としての自覚や責任が高まってきた。今後も, 様々な活動で異学年交流活動を取り入れた取組を進めていく必要性を再認識した。

(3) 抽出児童の変容

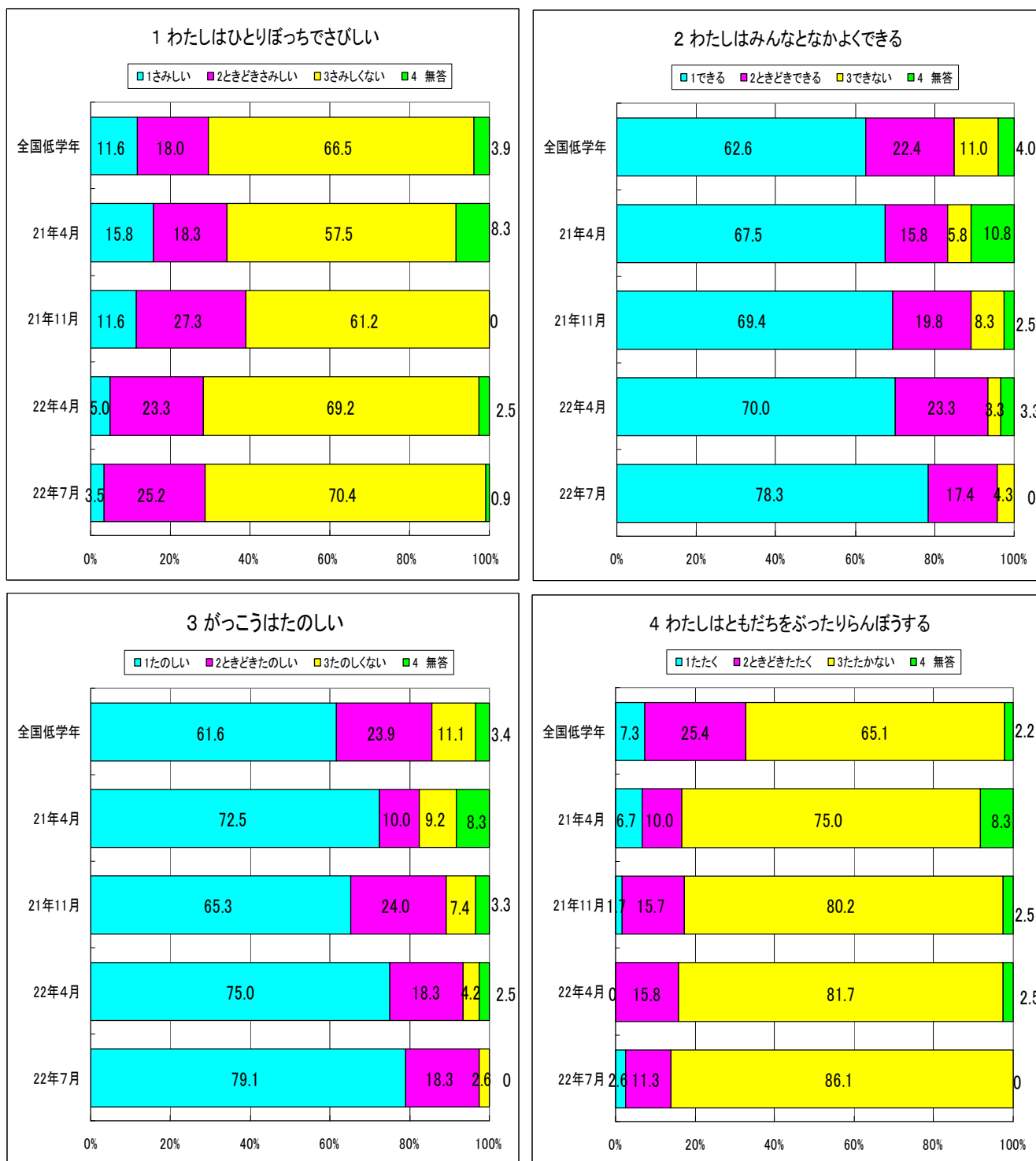
入学前の保育園・幼稚園との連絡会で, 友だちとのかかわりをもつことが苦手であると聞いていた児童Aの変容を追った。入学式後, 担任からは, 休み時間に友だちと遊んでいると, 自分の意見を主張しすぎて, トラブルを起こすことが多いとの報告をしばしば受けた。1回目のグループ・アプローチでも, じゃんけんれっしゃのエクササイズで, 負けたことが悔しくて終了後, 泣いていた。6年生とのペア清掃でも, なかなか指示が聞けず, 手をわずらわせていたとの報告を受けた。しか

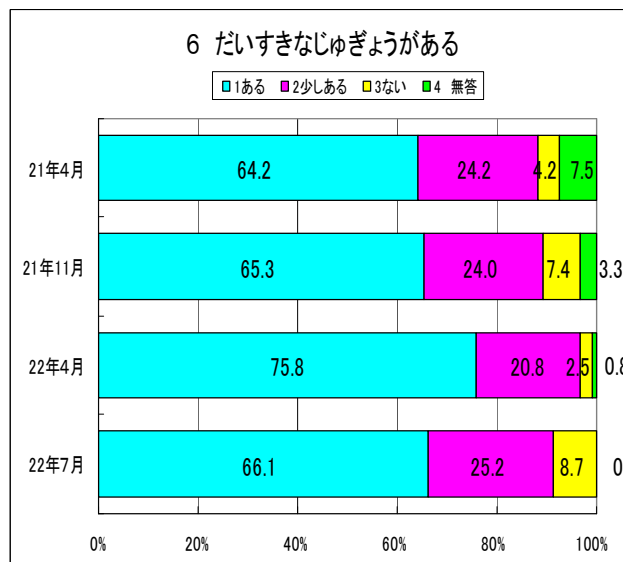
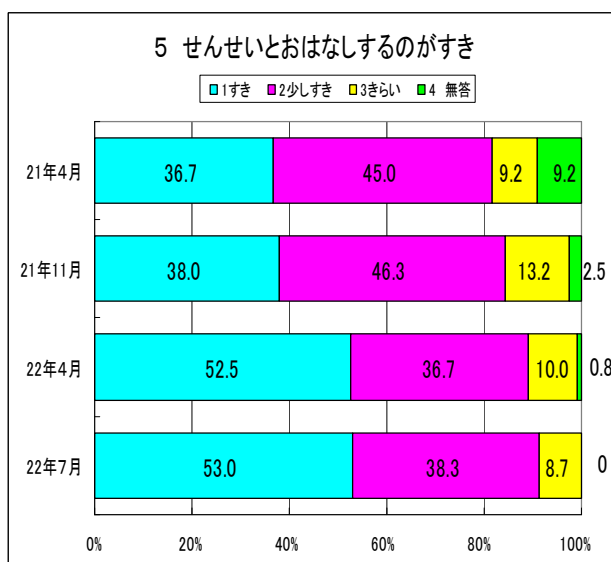
し、6月ごろからトラブルの回数が減り、表情も穏やかになった。2回目のグループ・アプローチでは、目を輝かせて取り組む姿がみられた。6年生との交流活動とグループ・アプローチの実践により児童Aがスムーズに小学校生活に適應することができたのではないかと考えている。

(4) 児童全体の変容

2年間の効果測定の結果を以下に示す。

【適應度調査結果】





「2わたしはみんなとなかよくできる」という設問においては、「できる」「ときどきできる」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、83.3%から89.2%に増えている。また、平成22年4月と7月の比較でも、93.3%から95.7%に増えている。さらに、「3がっこうはたのしい」という設問において、「たのしい」「ときどきたのしい」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、82.5%から89.3%に増えている。さらに、平成22年4月と7月の比較でも、93.3%から97.4%に増えている。グループ・アプローチや異学年交流活動を生かした取り組みを繰り返し実施した結果、よりよい人間関係を築き、仲間となかよく生活できる児童が増えていることが実証された。

「5せんせいとおはなしするのがすき」という設問には、「好き」「少し好き」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、81.7%から84.3%に増えている。さらに、平成22年4月と7月の比較でも、89.2%から91.3%に増えている。教師に対する信頼感の高まりも表われている。

一方で、「1わたしはひとりぼっちでさみしい」という設問には、「さみしい」「ときどきさみしい」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、34.1%から38.9%に増えている。平成22年4月と7月の比較でも、28.3%から28.7%とわずかであるが増えている。「4わたしはともだちをぶったりらんぼうしたりする」という設問には、「たたく」「ときどきたたく」と答えている児童が、平成21年4月と11月の比較で、16.7%から17.4%に増えている。小学校入学後、新たな人間関係を築いていく過程で、不安や悩みを抱えている児童がいることが分かった。日常生活の中でこのような児童を丁寧に見つめていくことを学校全体で共通理解し、指導を進めることを確認した。

4 今後の課題

今後の課題として以下の3点が残った。

- (1) 保育園・幼稚園との情報交換や交流をさらに密にして、児童一人一人の特性をしっかりと把握すること。
- (2) 児童の発達段階に応じて、グループ・アプローチを年間の指導計画にきちんと位置付け、系統的に指導していくこと。
- (3) 現職教育や授業研究を通して、教職員一人一人がファシリテーターとしての能力を身に付け、高めること。

これらの課題を解決することに努め、児童の実態に合わせたグループ・アプローチ在り方を研究していきたい。